

公益財団法人きょうと京北ふるさと公社

第1 法人の概要

1 代表者

理事長 石浦道男

2 所在地

京都市右京区京北上弓削町段上ノ下2番地の1

3 電話番号

075-854-8488

4 ホームページアドレス

<http://fuw.jp>

5 設立年月日

平成13年12月25日

6 基本財産

30,000千円（うち本市出えん額 25,000千円，出えん率 83.3%）

7 事業目的

優良農地の保全及び農林業従事者の高齢化等に対応した作業受託等ふるさとの農林業の維持振興や担い手の確保育成を図るとともに、森林資源や清流など地域の優れた自然環境や特性を活かしながら、都市住民との積極的な交流活動等の推進を図ることにより、美しい農山村景観の保持や人と自然が輝く活力ある農山村社会の形成に資すること。

8 業務内容

- (1) 農地利用集積円滑化に関する事業
- (2) 農作業等の受委託に関する事業
- (3) 都市農山村交流，農林業等ふるさと産業振興施設及び機械の管理運営に関する事業
- (4) 都市住民との農山村の交流や定住促進に関する事業
- (5) 担い手農家等の確保育成に関する事業
- (6) ふるさと振興等の調査研究に関する事業
- (7) 地域特産物の開発研究や販売促進に関する事業
- (8) 地域交通に関する事業
- (9) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

9 所管部局

京都市産業観光局農林振興室農政企画課（TEL075-222-3351）

10 役員名簿

(1) 理事長

石浦道男

(2) 副理事長

海老瀬篤司

(3) 常務理事

古家實義

(4) 理事

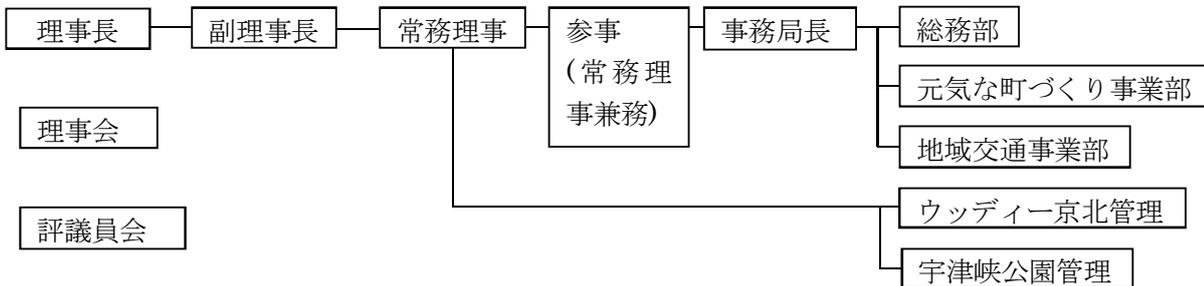
三嶋陽治（京都市産業観光局農林振興室京北農林業振興センター所長），荒田勉，寸田寿，志賀昌宏，比賀江義次，河合正晃（京都市右京区役所京北出張所次長）

(5) 監事

西田悟，磯部富美子

11 常勤職員数
22人（うち本市派遣職員 0人）

12 組織機構



第2 経営状況

1 平成27年度決算

(1) 事業報告

ア 農地利用集積円滑化事業

(ア) 農地利用集積円滑化事業実績

利用権設定2件

(イ) 農地中間管理制度による実績

a 成立件数（マッチング件数）1件

b 事業に伴う相談件数37件

c 農地貸付希望者数 申請件数32件，合計面積127,255㎡

d 農地耕作希望者数（認定農業者，新規就農者等）申請件数25件

イ 田舎の便利屋事業

(ア) 地域担い手確保事業

a 受託件数394件（前年度432件）

b 作業延べ人数2,170人（前年度2,529人）

c 受託金額27,014,149円（前年度32,123,603円）

(イ) 農作業受託事業実績

春作業受託件数92件，秋作業受託件数121件

ウ 地域活性化事業

(ア) 地域特産物開発研究事業

a 「道の駅ウッディー京北」加工食品販売高51,366,989円（前年度実績49,029,401円）

b 学校給食地産品取扱高8,018,954円

(イ) ふるさと振興等調査研究事業

a 空き家情報の提供による定住促進

b 市民農園「京北ふるさと農園さんりょう」の利用者拡大と運営

(ウ) 都市と農山村交流事業

a 主催イベント

市民農園（1回），道の駅ウッディー京北（3回）

b 参加イベント

京北地域内（2回），京北地域外（5回）

エ 地域交通事業

(ア) 京北ふるさとバス

地域唯一の公的生活交通手段として，無事故で安全なバス運行に取り組んだ。

中学生の通学に伴う乗車が運行収入の大半を占める中，地域バス案内所での問合わせ

対応や発券業務、PRのためのイベントの実施など、利用者の利便性を図り乗車人員の減少を防ぐための取組も行ってきた。

また、「京北地域内公共交通事業者連絡会議」での社会実験にも協力し、北桑田高校生の通学に伴うダイヤと料金設定については一定の成果も見ることができた。

このような取組を行う中ではあったが、中学生の減少等による地域の実態から、平成27年度の実績は、乗車人員、運行収入ともに昨年実績を上回ることはできなかった。

(イ) スクールバス

学校や京都市教育委員会との連携により、安全運行を第一の目標に掲げ、事故を起こすことなく一年間運行することができた。

オ 公共施設管理事業

(ア) 地域特産物需要拡大センター「道の駅ウッディー京北」管理運営事業

平成27年度の実績としては、入館者は40万人を超え、総売上げも過去最高の1億4,720万円余りとなった。

入館者数 404,282人（前年度実績 391,807人）

売上高 147,295,752円（前年度実績 139,840,131円）

(イ) 宇津峡公園管理運営事業

平成27年度は、利用がピークとなる8月に好天に恵まれたことや、閑散期となる10月以降に集客イベントや、地域の協力団体との催しなどにより、年間を通しての施設利用と集客に積極的に取り組んだ。

(a) 宇津峡公園入園者数 12,698人（前年度実績 11,776人）

(b) 宇津峡公園収入金額 22,921,151円（前年度実績 19,848,733円）

(c) ポイントカード発行数 11,182枚

カ 貸館事業（葬祭関連事業）

会場利用実績 34件

キ 農産物処理加工施設整備事業（大豆の里京北「第6次産業」化拠点施設整備事業）

施設名称を『山国「水・土・里の館」』として、京北まごころみその生産を中心に、納豆餅やその他農作物の加工生産及び販売に取り組んでいる。

ク 合併記念の森創設事業

9月から臨時職員1名を週2～3日間勤務で雇用し、合併記念の森内の管理道路、歩道、建物管理等通常の維持管理や、倒木処理、崩土除去等の土木工事等に取り組むと共に、年2回実施される森づくりイベントにも積極的に協力した。

ケ 山村地域担い手育成定着支援事業

農機具の貸付による新規就農者の支援対策や、公社の管理農地での農作物栽培に活用するため、事業補助を受け作業に必要な農業機械を導入した。

コ 京北地域農地集積人材育成事業（緊急雇用対策事業）

農業の担い手不足や遊休農地の増加に対する課題対策のため、担い手農家への農地集積や農家の経営安定、農業経営の効率化等を進めることを目的に4名を雇用し事業に取り組み、「農地利用集積円滑化事業」との関連のなかで、農地の調査を行うとともに、空き家を活用した新規就農者への住居の斡旋等も行なった。

また、農業への関心を高めてもらうため、地元公立高校の1年生による農作物生産に関する農作業体験も実施し、高い評価を得る取組となった。

(2) 財務諸表

貸借対照表

平成28年3月31日現在

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	42,475	43,649	△ 1,174
未収金	16,552	6,912	9,639
たな卸資産	1,631	1,600	31
貯蔵品	26	24	2
前払金	65	56	8
前払費用	199	263	△ 64
立替金	0	17	△ 17
流動資産合計	[60,947]	[52,522]	[8,425]
2. 固定資産			
(基本財産)			
基本財産	30,000	30,000	0
基本財産合計	(30,000)	(30,000)	(0)
(特定資産)			
建物	25,131	26,344	△ 1,214
車両運搬具 (特)	179	358	△ 179
工具器具備品 (特)	3,124	3,233	△ 108
建物付属設備 (特)	6,528	7,530	△ 1,001
機械装置 (特)	2,274	3,248	△ 975
退職給付引当資産	2,275	1,990	285
加工場建設積立資産	10,000	10,000	0
減価償却引当資産	20,300	20,300	0
リース資産 (特)	1,689	0	1,689
特定資産合計	(71,499)	(73,003)	(△ 1,504)
(その他固定資産)			
建物	8,122	9,078	△ 956
車両運搬具	961	107	854
工具器具備品	723	552	171
構築物	2,710	3,253	△ 543
建物付属設備	182	219	△ 37
機械装置	48	125	△ 77
リサイクル預託金	65	57	8
長期前払費用	249	0	249
その他固定資産合計	(13,061)	(13,391)	(△ 330)
固定資産合計	[114,560]	[116,394]	[△ 1,834]
資産合計	175,507	168,916	6,591

科 目	当年度	前年度	増減
Ⅱ. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	17,369	16,376	992
前受収益	682	676	6
未払法人税等	1,384	308	1,076
未払消費税等	3,163	0	3,163
前受金	7,389	6,586	802
預り金	1,838	2,024	△ 187
仮受金	0	1,314	△ 1,314
リース債務	39	0	39
賞与引当金	3,125	3,471	△ 346
流動負債合計	[34,987]	[30,755]	[4,232]
2. 固定負債			
長期未払金	1,275	0	1,275
退職給付引当金	2,275	1,990	285
リース債務	194	0	194
固定負債合計	[3,744]	[1,990]	[1,754]
負債合計	38,731	32,745	5,986
Ⅲ. 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
地方公共団体補助金	36,801	38,325	△ 1,524
寄付金	31,436	32,388	△ 952
指定正味財産合計	[68,237]	[70,713]	[△ 2,476]
(うち基本財産への充当額)	(30,000)	(30,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(38,237)	(40,713)	(△ 2,476)
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	[68,539]	[65,458]	[3,081]
(うち特定資産への充当額)	(33,030)	(32,290)	(740)
正味財産合計	136,776	136,171	605
負債及び正味財産合計	175,507	168,916	6,591

正味財産増減計算書

平成27年4月1日～平成28年3月31日

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	11	11	0
事業収益	231,532	228,955	2,577
受取補助金等	3,984	4,579	△ 595
受取寄付金	952	1,625	△ 673
経常収益計	236,479	235,169	1,310
(2) 経常費用			
事業費	228,184	220,774	7,410
管理費	3,920	18,177	△ 14,257
経常費用計	232,104	238,951	△ 6,847
当期経常増減額	4,375	△ 3,782	8,157
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産売却益	90	0	90
経常外収益計	90	0	90
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	90	0	90
法人税, 住民税及び事業税	1,384	308	1,076
当期一般正味財産増減額	3,081	△ 4,090	7,171
一般正味財産期首残高	65,458	69,548	△ 4,090
一般正味財産期末残高	68,539	65,458	3,081
II. 指定正味財産増減の部			
受取地方公共団体補助	2,460	0	2,460
一般正味財産への振替額	△ 4,936	△ 4,090	△ 846
当期指定正味財産増減額	△ 2,476	△ 6,203	3,727
指定正味財産期首残高	70,713	76,916	△ 6,203
指定正味財産期末残高	68,237	70,713	△ 2,476
III. 正味財産期末残高	136,776	136,171	605

2 平成 28 年度事業計画

(1) 事業計画の概要

ア 管理部門

健全な公社作りのため、計画的な施設や組織整備、経営の改善等に取り組む。

- (ア) 施設整備計画
- (イ) 組織強化計画

イ 事業部門

(ア) 農地利用集積円滑化事業

農地集積円滑化団体として、地域内での農地の保管理を目標に、後継者不在農地を借入れて、新規就農者の耕作地の確保に積極的に取り組む。

(イ) 田舎の便利屋事業

田舎の便利屋として、多種多様な作業の依頼対応と、新たな作業者の確保に取り組むと共に、農作業受託は未整備田等を問わず、依頼作業に対応できるよう取り組む。

- a 地域の担い手確保
- b 農作業受託

(ウ) 地域活性化事業

京北地域の課題である、人口減少の歯止めや都市住民との交流、新たな特産品の開発による生産者の所得向上など、地域の活性化を目指した事業と運営に取り組む。

- a 空き家対策
- b 地域特産物研究開発と学校給食資材の供給
- c 市民農園の運営と都市住民との交流

(エ) 地域交通事業

道路運送法に基づく「公共交通空白地有償運送事業」を、京都市及び地域団体と連携を密にし、安全運行に最重点を置き、運行の効率化、乗車人員の増員、運賃収入の増収を目標に、京北地域の交通手段確保と信頼される輸送サービスに取り組む。

- a 京北ふるさとバス運営事業
- b スクールバス交通受託事業

(オ) 山村地域担い手育成定着支援事業

事業により導入した農業機械を、新規就農者や担い手農家に貸し出すなど有効に活用し、支援事業として取り組む。

(カ) 公共施設管理事業

a 地域特産物需要拡大センター「道の駅ウッディー京北」管理運営事業

- (a) 委託販売部門（公益事業）
- (b) 喫茶部門（収益事業）

b 宇津峡公園管理運営事業

(キ) 貸館事業（葬祭関連事業）

(ク) 農産物処理加工施設整備事業（大豆の里京北「第6次産業」化拠点施設整備事業）

京北地域の特産品開発や農業活性化の拠点として、主要生産物の大豆を原料に味噌加工、納豆もちの生産販売に努める。

(2) 予算

正味財産増減予算書

平成28年4月1日～平成29年3月31日

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産受取利息	10	10	0
事業収益	82,200	71,549	10,651
使用料等収益	28,185	29,850	△ 1,665
手数料等収益	23,045	22,826	219
補助金収益	34,000	35,093	△ 1,093
委託料収益	50,650	63,470	△ 12,820
交付金収益	1,800	1,800	0
雑収益	1,057	976	81
補助金取崩益	3,505	3,671	△ 166
寄付金取崩益	564	952	△ 388
経常収益計	225,016	230,197	△ 5,181
(2) 経常費用			
事業費	223,325	215,271	8,054
管理費	1,299	14,383	△ 13,084
経常費用計	224,624	229,654	△ 5,030
当期経常増減額	392	543	△ 151
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
法人税，住民税及び事業税	392	543	△ 151
当期一般正味財産増減額	0	0	0
一般正味財産期首残高	68,539	68,539	0
一般正味財産期末残高	68,539	68,539	0
II. 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	△ 3,613	△ 4,623	1,010
当期指定正味財産増減額	△ 3,613	△ 4,623	1,010
指定正味財産期首残高	66,090	70,713	△ 4,623
指定正味財産期末残高	62,477	66,090	△ 3,613
III. 正味財産期末残高	131,016	134,629	△ 3,613

(参考1) 財務状況の推移

(単位：千円)

		H25 (決算)	H26 (決算)	H27 (決算)	H28 (予算)
正味財産増減計算書	経常収益	261,839	235,169	236,479	225,016
	当期経常増減額	3,543	△3,782	4,375	392
	当期正味財産増減額	△6,630	△10,293	605	△3,613
貸借対照表	総資産	177,394	168,916	175,507	
	総負債	30,930	32,745	38,731	
	正味財産	146,464	136,171	136,776	

(参考2) 京都市からの補助金等

(単位：千円)

		H25 (決算)	H26 (決算)	H27 (決算)	H28 (予算)
委託料	公共施設管理事業 (指定管理)	6,300 (※)	6,377 (※)	5,500 (※)	5,500 (※)
	スクールバス運行受託事業	18,392	18,973	18,500	
	じっくり楽しむ京北推進事業	8,000			
	総合獣害対策モデル事業	6,800	1,600		
	京北地域担い手支援対策事業	5,780			
	合併記念の森維持管理事業	2,848	2,034	1,985	
	京北農地集積人材育成事業		9,100	10,800	
	京北地域農林業地域活性化促進事業			13,000	
補助金	運営補助金	13,640	12,087		
	京北ふるさとバス運営事業補助金	37,145	34,000	34,000	34,000
	山村地域担い手育成定着支援事業			2,460	

(※) 一部利用料金制

第3 経営評価結果

1 所管局による経営状況の全般評価

財務面	<ul style="list-style-type: none">平成 27 年度は、公益事業に係る損益がほぼ収支均衡となったが、収益事業の収支で全会計の赤字を補てんでき、当期正味財産増減額は約 60 万円の黒字となった。今後も、健全な運営を継続するため、更なる経費削減や収益事業の拡充に取り組む必要がある。
事業面	<ul style="list-style-type: none">指定管理施設として受託している地域特産物需要拡大センター（道の駅ウッディー京北）や宇津峡公園において、利用者数、総売上とも昨年度実績を上回った。特に宇津峡公園については、新たなイベントに取り組んだ結果、悪天候により伸び悩んだ昨年度に比べ約 16%増の売上げを記録し、都市住民等を地域に呼び込むことに大きく貢献している。

2 外郭団体総合調整会議による評価コメント

財務面	<ul style="list-style-type: none">当財団の収益事業には、天候などの不安定要素に左右される面があることから、安定的な財務運営を行うためには、経費削減及び収入源の確保に努める必要がある。
事業面	<ul style="list-style-type: none">経営努力により収益事業が堅調に推移し、地域振興に貢献している点は評価できる。